

キャリアパス及び出向・研修等について

入省

係員

P.27



科学技術・学術政策局
産業連携・地域振興課
拠点形成・地域振興室

蒔苗 咲希

令和4年入省
(教養)

4年目

係長級

P.27



科学技術・学術政策局
産業連携・地域振興課
拠点形成・地域振興室地域企画係長

吉村 奏

平成31年入省
(教養)

START /



係長、専門職

幅広く実務を経験

留学

他府省等への出向

P.34

人事院留学



ロンドン大学 (IoE)・
ロンドン大学 (LSE)

新見 志歩

平成25年入省
(法律)

P.34

原子力留学



イギリス・
サセックス大学

中村 智秀

平成26年入省
(化学・生物・薬学)

P.35

在外公館



外務省UNESCO
日本政府代表部
一等書記官

斉藤 眞

平成18年入省
(経済)

P.35

在外公館



外務省
在フランス日本国大使館
一等書記官

大野 貴博

平成22年入省
(理工III)

P.36

地方教育委員会



福島県教育庁
教育総務課長

堀家 健一

平成23年入省
(人間科学I)

※下記のキャリアパス等は基本的な例であり、本人の適正・希望等により変わります。

9年目

課長補佐級

管理職員

幹部職員

P.29



研究振興局
ライフサイエンス課
専門官

横井 奈央

平成26年入省
(理工I)

P.30



研究開発局
研究開発戦略官
(併)内閣府参事官

馬場 大輔

平成16年入省
(理工III)

P.31



研究開発局長

千原 由幸

平成元年入省
(機械)

補佐、専門官

担当業務の企画・立案・調整

室長・課長

課の政策の企画・立案・調整

地方公共団体・国立大学法人等への出向

海外勤務(在外公館、OECD・UNESCO等)

P.36

国立大学法人等



北海道大学
総務企画部企画課
課長補佐

青木 沙也

平成29年入省
(農業科学・水産)

P.37

他府省等



内閣官房
内閣サイバーセキュリティ
センター

高橋 智

令和3年入省
(化学・生物・薬学)

P.37

地方公共団体



新潟県三条市
副市長

上田 泰成

平成26年入省
(法律)

P.38

ベンチャー企業等現場研修



NPO法人
みんなのコード

阿久津 菜里

平成28年入省
(法律)

P.38

学校現場研修



大分県玖珠町
くす星翔中学校

上田 椋也

平成31年入省
(人間科学)

CAREER STORY

01



科学技術・学術政策局産業連携・地域振興課拠点形成・地域振興室地域企画係長

吉村 奏 Yoshimura Kana
平成31年入省(教養)

平成31年 4月 文部科学省総合教育政策局
地域学習推進課法規係
令和3年 7月 同 初等中等教育局健康教育・食育課
企画調整係
令和4年 4月 同 初等中等教育局健康教育・食育課
企画調整係長
令和5年 9月 現職
(併)内閣府地方創生推進事務局参事官
(地方大学・産業創生担当) 付主査
(併)内閣府本府地方創生推進室主査

ある一日の出来事

出勤

audibleを聴きながら出勤。小説を聴いていることが多いですが、エッセイも好きです。

午前中

係内の業務の相談に乗ったり、方針の決定をしたりした後、国立大学法人等の運営に関する基本的な制度を学ぶ省内研修に参加。大学関係の業務に携わるのが初めてなので、業務と併行しながら学ぶ機会があるのはとてもありがたいです。

昼休み

同期とランチ。
夏にタイに旅行に行ってからタイ料理がマイブームです。

午後

内閣府と大学の研究力向上に向けた意見交換。その後、J-PEAKSの今後の検討事項を整理し、対応案をまとめた資料を作成した後、方針や今後の進め方について室長に相談。

帰宅

翌日からの出張に備えて準備。実際に大学を訪問し、大学の研究開発の取組や研究環境を視察したり、研究者や大学職員と意見交換をしたりする機会も多いです。



左から蒔苗、吉村

現在担当している業務の概要

蒔苗係員 産業連携・地域振興課では、大学等発スタートアップを生み出し、イノベーション・エコシステムを創出するための施策や、大学が強みや特色を活かしてグローバル・ローカルに活動を拡張させるための施策等、産学官連携に関わる様々な施策の立案・実行を行っています。施策推進のため、科学技術・学術政策局内外の関係課、他省庁、独立行政法人、民間企業等、様々な関係者との調整を行っています。

吉村係長 その中で、私たちのいる拠点形成・地域振興室は、産学官連携のための拠点の形成と科学技術の振興による地域振興をミッションにしています。現在は、各大学の強みや特色ある研究力を核とした戦略的な大学経営を支援する「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業J-PEAKS」や、産学官共創によるイノベーション・エコシステムの構築を支援する「共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)」といった事業を通して、大学等の取組を推進しています。

係員から見た
係長の尊敬する点

蒔苗係員 吉村係長の素敵なおところはたくさんありますが、いつも穏やかで周りを和ませる雰囲気でありながら、勉強熱心でアイデア豊富なおところを

尊敬しています。政策について議論するときは、上司・部下の考えを汲み取りながらご自身の意見も伝えてくださるので、年次関係なく闊達な意見交換ができています。吉村係長の姿自体が私にとってもモチベーションとなっていて、日々より良いアウトプットができるよう頑張ろうと思っています。

係長から見た
係員の良いところ、長所

吉村係長 蒔苗さんは何事にも前向きで、入省2年目ですが、課の業務改善リーダーもされています。蒔苗さんが、職場環境の改善や業務の非効率的な点の見直しを先導してくれているおかげで、係もテレワークをしたり年休を取ったりしやすい雰囲気ができています。

そのようなことをはじめ、日頃から、疑問に感じたことをそのままにせず、当たり前を疑って常に改善しようとする蒔苗さんの姿勢には刺激を受けています。

印象に残っている業務

蒔苗係員 J-PEAKSの採択大学を決定するまでのプロセスに関わったことです。1,498億円という大きな基金が措置され、全国の大学から多数の応募があった中で、書類審査の過程を見たり、各大学の学長等によるプレゼンテーションを聞く中で、良い大学

係長 × 係員インタビュー



打合せ風景



科学技術・学術政策局産業連携・
地域振興課拠点形成・地域振興室

蒔苗 咲希 Makanae Saki
令和4年入省(教養)

令和 4年 4月 文部科学省大臣官房人事課計画調整班
令和 5年 8月 現職

ある一日の出来事

- 出勤** その日のニュースをチェックした後、週末の旅行のために友達とLINEで相談しました。
- 午前中** 届いたメールに優先順位を付けながら、緊急性や重要度の大きな作業から行っていきます。また、午後の打ち合わせに向け、担当者同士で事前に論点を整理しました。
- 昼休み** 同期とランチに行ったり、食堂でたまたまお会いした先輩職員等と話すことも多いです。仕事の情報交換から日常の話題までお話しできるので、ランチタイムは大切な時間です。
- 午後** 大阪・関西万博に向け、委託先企業とのオンラインミーティングに参加。出展する大学や万博に来場する中高生など、たくさんの関係者にとって有意義なイベントになるよう、知恵を絞っています。
- 帰宅** その日の業務を終え、翌日の予定・やるべきことを確認してから帰宅。スポーツジムに行って心身をリフレッシュしました。

ガバナンスや、継続的に成果を生み出す研究環境とは何かについて考えるきっかけになりました。すぐに答えの出る問いではありませんが、引き続き多くの有識者等の関係者と協働しながら、考えを深めていけると思うとワクワクします。

吉村係長 私もJ-PEAKSの採択大学決定に向けた過程もちろん印象深かったのですが、J-PEAKSが始まるこのタイミングに異動してきたことで、事業の詳細を設計することに携われたことが何よりも幸運だったなと思います。現在は、採択大学が掲げる各大学の10年後のビジョン実現に向けて、どのような伴走支援ができるかを検討しているのですが、難しくも大変やりがいのある業務です。その検討においては、省外の有識者へのヒアリングを重ね、省内関係者や日本学術振興会と何度も議論し、大学関係者と対話する、といったことを積み重ねており、それら1つ1つのプロセスが大変勉強になります。

係の雰囲気はどうですか

蒔苗係員 地方公共団体や大学からの出向者の方も含めて一つの係として働いています。バックグラウンドは違いますが、それぞれの個性・強みを活かして連携できており、日々の業務の中で刺激をいただいています。素直にお互いを尊重できているところが雰囲気の良さにつながっていると思います。

志望者へのメッセージ

吉村係長 自分の就職活動を振り返ると、自分とよく向き合った期間だったと思います。

教育に携わりたいと思って文部科学省を志望する方や、これからの社会を創りたいと思って国家公務員を志す方など、志望動機は人それぞれだと思いますが、教育1つをとっても関わり方は様々ありますし、当然のことながら社会を創っていくのは国家公務員だけではありません。

自分が何をやりたいのか、どんな社会で暮らしていきたいと思うのか、それに対してどのようなアプローチが良いと考えるのか。たくさん自分と向き合ってみてください。

蒔苗係員 就職活動は社会の動きを自分事として捉え、自身の価値観を見つめ直すことのできる貴重な機会だと思います。ぜひたくさんの方の話を聞いて、自分がなりたい社会人像を描いてみてください。文部科学省は、人の人生を豊かにし、これからの社会を明るくする分野を所管しています。前向きで熱意があり、思いやりのある職員が多いと感じているので、ご自身の思い描く社会が文部科学省で実現できると少しでも思った方は、ぜひ採用説明会等に参加してみてください!きっと素敵な職員との出会いがあるはずです!

CAREER
STORY

02



イノベーションの先を目指して

現在担当している業務の概要

ライフサイエンス分野のうち、放射線の医学的利用や、がん、感染症、医療機器等に関する先端的な医科学研究等に関する研究推進を担当しています。

例えば、我が国では、新型コロナウイルス感染症のパンデミックを踏まえ、ワクチンを国内で開発・生産できる力を持つことの重要性が指摘されました。関係府省庁で協力して本課題に取り組んでいる中で、文部科学省では、研究開発拠点の体制整備や、同研究拠点を中心とした出口を見据えた関連研究等を強化・推進しています。また、放射線医学に関する研究推進としては、国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構を通じて、がん治療や精神疾患等

に対する治療・診断技術を有機的に統合し、量子科学技術を取り入れた、新たな診断技術・治療薬等に関し、基礎から臨床研究、実診療まで一貫した研究開発を推進しています。

研究者が誇りを持って夢と希望のある研究を推進し、人類の生活向上にも貢献することを目指して、大学等の研究者や関係府省庁の方々等と議論を重ねています。

これまでのキャリアを振り返って

基礎研究、産学官連携、宇宙、原子力など科学技術推進に関する様々な部署のほか、省全体の政策立案・評価等に関する部署や国際機関での勤務等を経験してきました。大学等における優れた基礎研究の成果創出から、企業への技術移転やスタートアップ、知財戦略、人材育成に至るまで、様々な立場で現在の我が国の最重要施策のひとつであるイノベーション創出に取り組み、挑戦してきました。クリエイティブな政策や事業を作り上げていく過程には苦しさもありましたが、楽しく刺激的でした。また、ウィーンにある国際原子力機関（IAEA）で勤務する機会を得ました。英語コンプレックスがあり不安でしたが、作成に関わった研修カリキュラムが世界各国で使われ、上司から次のキャリアに繋げるようにと推薦状をいただくなど、国際的な仕事に対する自信を得ることができました。更に、国立歌劇場や楽友協会でのコンサ-

ト等、ウィーンの文化にも触れることができました。

今後、人類社会が抱える課題は、より複雑で多様なものになっていくと思います。様々な問題を抱える世界の中で、我が国が質的發展を遂げ国民生活が豊かになるよう、また、人類社会全体に貢献できるよう、現在の体制や自分の立場にとらわれず新たな課題に取り組んでいきたいと思っています。

志望者へのメッセージ

文部科学省に入省すると1~2年で部署異動を繰り返し多様な経験を積んでいきます。異動に伴う一からの勉強はつきものですが、学びを続けることで世界が広がっていくという知的な好奇心が高められる職場です。各分野の深い知見と長い経験を持つ、国内外の大学・研究機関・企業等のプロフェッショナルな方々と、最先端の研究や技術に触れながら政策を考えることは、文部科学省ならではの経験だと思います。文部科学省は、文部科学省内の職員はもちろんのこと、多くの専門家と共にチームを組んで政策を進める職場だと、常に感じます。互いの個性や専門性を尊重し、個々人の特徴に応じた力を発揮することでチーム力を高めることを目標に、日々、業務に取り組んでいます。

文部科学省は未来を創る省庁です。新しく柔軟な考え方の皆さんと相互に刺激を受けつつ仕事を進めていくことを楽しみにしています。

研究振興局ライフサイエンス課専門官

横井 奈央 Yokoi Nao
平成26年入省（理工Ⅰ）

平成26年 4月	文部科学省大臣官房総務課行政改革推進室
平成27年 7月	同 大臣官房政策課 (併) 大臣官房政策課評価室
平成28年 6月	同 科学技術・学術政策局 産業連携・地域支援課
平成29年 4月	同 科学技術・学術政策局 産業連携・地域支援課専門職
平成29年 10月	同 研究開発局原子力国際協力係長 (併) 研究開発局開発企画課 核不拡散科学技術推進室
令和元年 7月	同 研究振興局学術研究助成課 企画室係長
令和2年 10月	同 研究開発局原子力課専門職
令和3年 7月	同 研究開発局宇宙開発利用課 課長補佐心得
令和4年 4月	同 研究開発局宇宙開発利用課課長補佐
令和5年 5月	現職

CAREER
STORY

03



Vision with action can change the world.

現在担当している業務の概要

令和5年4月に我が国初の国家戦略として、フュージョンエネルギー・イノベーション戦略を策定しました。フュージョンエネルギーとは、水素等の軽い原子核同士が結合して別の原子核に代わる際に放出されるエネルギーであり、太陽や星を輝かせるエネルギーでもあります。

世界のカーボンニュートラルに向けた動きの中で、政府主導による取組の進展もあり、海外では民間投資が増加しており、米国や英国等のスタートアップは、これまでの政府の計画よりも早い野心的な発電時期を目標に掲げるなど、研究開発競争が加速しています。我が国としても、従来のITER計画（日欧米韓中露印の世界7極の国際協力に基づき、核融合実験炉ITERの建設・運転を通じて、科学的・技術的実現性の確立を目指す国際プロジェクト）からの原型炉開発というアプローチを強力に推進するとともに、フュージョンエネルギーを新たな産業として捉え、産業協議会の設立やスタートアップへの支援強化、投資促進、規制改革等、多面的なアプローチにより実用化を加速することとしています。

これまでのキャリアを振り返って

令和6年の今年、入省してから20年目を迎えました。多くの部署を経験してきましたが、想定以上に過去

の経験や知見を活かせることが多いと感じます。前職の大学研究力強化室では、多様な研究大学群の形成に向けて、大学ファンド・国際卓越研究大学制度の制度設計や地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージの拡充等に取り組みましたが、高等教育局での私立学校法改正の対応、博士課程学生に対する経済的支援の検討、米国留学時の講義や議論、創発的研究支援事業を通じた若手研究者との対話等、直接的・間接的に役立つ知見や問題意識を得ることができました。

現職では、ITER計画の理事会や科学技術協力協定に基づく会合など、多国間・二国間における様々な交渉・調整を日々実施していますが、在米大使館で外交官として勤務した経験を活かすことができます。例えば、昨年10月には、日本と欧州が共同で建設した超伝導プラズマ実験装置JT-60SAが、初プラズマを生成しました。その際には、文部科学大臣と欧州委員の共同プレス声明やITER機構長による総理表敬など、戦略的に国際活動を推進することができました。

志望者へのメッセージ

学生時代は物理学を専攻していたため、元々は研究者や技術者を目指していました。ただ、自分自身の適性や関心を改めて考えた時、専門分野を突き詰めるよりも、幅広い視野を持ち、多様な価値観を身に付け、

多面的で深い見方ができるようになりたいと思うようになりました。

文部科学省では、海外留学の機会や大使館での勤務等、努力次第で多くの可能性が開かれています。また、様々な業務や大学等での学び直しを通じて、自分自身を成長させることができ、それを社会に貢献できる環境が整っています。

Vision without action is merely a dream. Action without vision just passes the time. Vision with action can change the world.

「未来の先行投資」というミッションの下、皆さまで誇りある日本を共に創っていくことを楽しみにしています。

研究開発局
研究開発戦略官（併）内閣府参事官

馬場 大輔 Baba Daisuke
平成16年入省（理工III）

平成16年	4月	文部科学省研究振興局振興企画課
平成17年	4月	同 高等教育局私学部私学行政課
平成19年	4月	同 科学技術・学術政策局基盤政策課
平成21年	6月	同 大臣官房人事課 (人事院留学：アメリカ・ミシガン大学 公共政策大学院)
平成23年	6月	同 研究振興局ナノテクノロジー・材料開発 推進室室長補佐
平成25年	6月	同 研究振興局ライフサイエンス課 課長補佐
平成27年	7月	同 研究開発局原子力課課長補佐
平成28年	6月	外務省在アメリカ合衆国日本大使館 一等書記官
令和元年	7月	文部科学省研究振興局振興企画課 課長補佐
令和2年	8月	同 研究振興局基礎研究推進室長 (併)内閣府企画官(東京大学 エグゼクティブ マネジメント・プログラム修了)
令和3年	10月	同 研究振興局大学研究基盤整備課 大学研究力強化室長 (政策研究院大学院大学外交アカデミー修了)
令和5年	9月	現職

CAREER STORY

04



研究開発局長

千原 由幸

Chihara Yoshiyuki
平成元年入省（機械）

平成元年	4月	科学技術庁長官官房秘書課
平成元年	4月	同 原子力局政策課
平成2年	7月	同 研究開発局宇宙企画課
平成3年	7月	同 研究開発局宇宙企画課調整係長
平成3年	10月	同 研究開発局宇宙開発課開発係長
平成5年	4月	同 原子力局調査国際協力課国際協力係長
平成7年	4月	同 研究開発局総合研究課 地球科学技術推進室専門職 (平成8年3月～平成9年3月 原子力留学：国際原子力機関（オーストリア） (平成9年4月～平成10年3月 派遣：国際原子力機関（オーストリア）
平成10年	4月	文部科学省原子力局廃棄物政策課課長補佐 (低レベル放射性廃棄物・廃止措置対策担当)
平成12年	6月	同 原子力局政策課原子力調査室室長補佐
平成13年	1月	内閣府政策統括官付参事官 (原子力担当) 付参事官補佐
平成13年	6月	外務省在アメリカ合衆国日本国大使館 一等書記官
平成16年	9月	内閣府大臣官房総務課課長補佐
平成17年	10月	文部科学省研究開発局宇宙開発利用課 宇宙利用推進室長
平成19年	7月	同 科学技術・学術政策局計画官
平成20年	7月	同 研究開発局研究開発戦略官
平成22年	7月	同 初等中等教育局特別支援教育課長
平成24年	8月	同 大臣官房付 (併)内閣官房内閣参事官(内閣官房副長官補付)
平成26年	10月	同 研究開発局宇宙開発利用課長
平成27年	8月	同 研究開発局開発企画課長
平成28年	1月	同 大臣官房参事官
平成29年	1月	同 大臣官房人事課長
平成30年	4月	同 大臣官房審議官(研究振興局担当)
平成30年	10月	同 大臣官房審議官 (研究振興局及び高等教育政策連携担当)
平成31年	4月	同 大臣官房審議官(研究開発局担当) (併)内閣府審議官(科学技術・イノベーション担当)
令和2年	8月	内閣府大臣官房審議官 (科学技術・イノベーション及び 沖縄科学技術大学院大学企画推進担当)
令和3年	4月	同 科学技術・イノベーション推進事務局 審議官(沖縄科学技術大学院大学企画推進担当)
令和3年	7月	文部科学省科学技術・学術政策局長
令和4年	9月	現職

質の良い縁の下の力持ちを
目指して

現在担当している業務の概要

現在所属する研究開発局は、地震・火山・防災、海洋・極域、環境・エネルギー、核融合、宇宙・航空、原子力の各分野を所掌しており、国家の総合的な安全保障、エネルギー、環境、国土強靱化等の社会課題の解決に貢献すべく業務を遂行しています。着任して2年目ですが、印象に残っている仕事の一つは、宇宙航空研究開発機構（JAXA）への「宇宙戦略基金」の設置と、そのために必要となるJAXA法改正です。宇宙分野については、世界中でスタートアップを含む民間等の宇宙事業への進出が盛んであり、NASA等欧米の政府機関も、その動きを支える資金的支援を行ってきています。このため、我が国においても、内閣府を中心に、同じくJAXAを所管する総務省、経済産業省と共に、宇宙戦略基金を創設することとなりました。政府文書作り、予算措置、法案準備と国会審議等のそれぞれの場

面において、局及び省、更には4府省の同僚・上司が一丸となって関係方面と密接かつ綿密に調整を行い、令和5年の臨時国会で改正JAXA法を可決・成立していただいた瞬間は、何物にも代えがたい達成感がありました。今後、お預かりした基金をしっかりと執行し、我が国の宇宙開発の更なる前進に役立てていきたいと思っています。

これまでのキャリアを
振り返って

印象深い業務の一つに、特別支援教育課における、障害のある子供も障害の無い子供も共に学ぶインクルーシブ教育システムの構築に関する業務があります。それまで教育行政に携わった経験は無く、不安一杯の着任でしたが、教育現場を視察させていただく等の中で、障害のある子供たちや保護者、教師等が一生懸命に頑張っておられる姿に接し、より良い教育を受けられる環境整備に尽くしたいとの思いを強くしました。文部科学省では特

幹部職員インタビュー



古い友人のパラバスキITER機構長と（官邸にて）

別支援教育の在り方に関する特別委員会を設置し、子供たちが十分な教育を受けられる同システムの構築には具体的に何が必要かを議論していただきました。委員会での審議はもちろん、委員長をはじめとする有識者委員から個別に色々とお教示いただいたことは大変得難い機会でした。障害者基本法の改正に当たっては、同委員会の論点整理等を基に教育部分の条文案につき関係方面と粘り強く調整を行い、政府案を見いだしました。また、同システムの構築に必要な予算を確保するため、厳しい財政状況下なるも増額要求方針を上司と相談。確定する前に異動になりましたが、予算が増になった時には、とてもやりがいを感じました。この一連の過程には官僚に必要な様々な要素が含まれており、この経験はその後の業務で大いに役立っています。

志望者へのメッセージ

物的資源に乏しく、少子高齢化が進む我が国が、将来にわたり持続可能で心豊かな社会を実現するとともに、世界と伍し、かつ貢献していくためには、一人ひとりがその能力を開花させ、知恵やアイデア、独創性等人材力で勝負していくしかありません。文



第15回 宇宙科学奨励賞表彰式にて

部科学省では、教育、科学技術・学術、文化・芸術、スポーツの各分野において、人材育成は最重要の政策課題の一つです。変化のスピードが速く、激動する現代社会において、未来を決めるといっても過言ではない人材育成を主要な任務とする当省の役割は、益々高まっているものと思います。日本という素晴らしいこの国の未来をつくり、切り拓く省庁とも言うべき文部科学省において、一緒に将来ビジョンを議論し、施策を企画・立案・推進していきたいと願う志のある皆さまの入省を心よりお待ちしております。



海洋研究開発機構「しんかい6500」
実物大模型コックピットにて（中央）